

令和4年度(2022年度) アフターコロナ学校企画応援事業

事業実施報告(総括)

総括

【対象校】

- 小学校3校、中学校3校(うち1校採択後に取下げ)

【取組結果】

- アフターコロナに資する取組みを各校で展開し、事業の狙いであった「コロナ課題への対応」、「賑わいづくり」、「特色ある学校づくり」に寄与することができた。
- 児童・生徒にとって、自己肯定感や自己有用感、達成感などを得られる貴重な機会を創出できた。

【課題】

- 「働き方改革」を推し進める学校現場における負担感の少ない事業推進のあり方。

【次年度に向けて】

- アフターコロナに限らず、「特色ある学校づくり」をさらに推進するための仕掛けづくりが必要。

各校の取組み

(1) 大池小学校

(2) 桜塚小学校

(3) 泉丘小学校

(4) 第十二中学校

(5) 第十五中学校

(1) 大池小学校

【プロジェクト名】

大池万博2022

【取組内容】

- 外部から参加団体を招聘して行っていた従来の大池科学博を見直し、**新たに地域やPTAと連携し、児童自ら企画運営**する行事にすることにした。
- 児童が科学の不思議さや楽しさを学び、それを他人に伝えるためプレゼンし、**知るだけでなく知り得た知識を自ら考え工夫して低学年に伝えていく取組み**を設定。
- 低学年児童はその姿を見て学び、数年後は自分がその役をするという自覚を持たせ、高学年への希望を持たせた。またタブレット端末を活用し、プログラミングロボットを作成・操作実演。

【自己評価(成果)】

- 地域の方がプログラミングロボットを指導してくれたので、学校だけでは到底できない専門的な動きを経験することができた。
- プログラミングロボットを児童2人につき1台購入できたので、6年生全員がイベント後も継続的に初歩的な技術を習得し、下級生に教授できるまでになった。
- 児童が主体的にイベントに取り組み、創意工夫して参観者のために企画運営できる機会を持たせた。

【課題】

- 準備など担当の負担が大きい。
- 校務分掌の位置づけが必要。
- PTAや地域団体など外郭団体が加わることで児童の主体性を生かす趣旨が低くなる可能性がある。



(2) 桜塚小学校



【プロジェクト名】

自分が好き！仲間とともに！夢がいっぱい プロジェクト～体力向上編～

【取組内容】

- 楽しく運動する習慣をつけるため、現役世界チャンピオンでプロ縄跳びプレイヤーの黒野寛馬さんを招聘し、10月～2月まで縄跳び運動に取り組む。
- 体を動かすことが好きな児童を育てるため、スポーツリズムトレーニングの指導者である魚津大志さんを招聘し、リズムトレーニングを体験。

【自己評価(成果)】

- 縄跳びもスポーツリズムトレーニングも、とても意欲的に楽しく取り組むことができた。児童の「もっとやりたい！」「難しい技に挑戦したい！」などの意欲を引き出したことは大きい。
- 縄跳びの取組みの時は、運動場のあちこちで縄跳びをしている児童がたくさんいた。当初の目標でもあった屋外で運動する児童が増加したように感じる。
- どちらも個々の到達度に応じた目標を立てることができる運動であるので、その目標を明確に持たせることによって楽しく取り組めることがわかった。
- 学校全体として欠席する児童が減少し、コロナやインフルエンザ流行期であっても学級休業等がなく、元気に過ごす児童が増加した。

【課題】

- 評価指標を見ると、女子の運動やスポーツに対する評価が伸びなかった。5年生ともなると、運動能力差も明確になってくるので、低学年のうちから楽しみながら運動やスポーツに取り組めるようにする必要があると感じた。
- 体育の授業では難易度の高い技ができる事を目標にしてしまうことが多く、一部で体育嫌いの児童を育ててしまいがちである。指導観点等をしっかり研究して、目標を明確に示し、運動好きの児童を育成するよう研究が必要である。 など

(3) 泉丘小学校

【プロジェクト名】

いずみがおか マラソン大会 in 服部緑地陸上競技場 ～体力づくりと向上心アップを目指して～

【取組内容】

緑地公園陸上競技場を貸切、持久走など体力づくりにつながる運動を実施する。

持久走を実施し、学年ごとに定めた距離を走って、タイムを計測し、自分の力を把握することを目的とする。

午前中を3学年ずつ貸切り、2日かけて全学年のマラソン大会を行う。(学級休業等、未実施時の対策のため、予備日を一日設ける。)



マラソン大会
当日の様子→

【自己評価(成果)】

- 学校全体でマラソン大会に向けて、体育の授業の中で練習できたことが良かった。
- 競技場の中に足を踏み入れた子どもたちからは思わず、歓声があがり、このような場所で走ることのうれしさや、緊張が感じられた。**
- 多くの保護者の方にもお越しいただき、温かい声援を送って頂くことができた。大会終了後も、保護者からたくさん感謝の言葉をいただいた。
- 何よりも**自分の目標に向かって最後まで頑張っている子どもたちの姿**とそれを応援する周りの人々の姿に一番、感動した。
口から出る言葉がすべて前向きな言葉がけであり、学年で共有する一体感、その高まりを感じた。

【課題】

- 当日の準備・片付け、それまでの下見や打ち合わせなど管理職はもちろんのこと、実施に向けて体育専科や養護教諭の役割は大きかった。
学校体制が変わったり、人が変わったら次年度以降の継続は厳しいところがあると考えられる。
- 行事精選が叫ばれる中、マラソン大会の意義はわかるが、**新たな行事をいれることによる教職員の負担増や授業時数の問題**等についても、考えていかなければならない。
- インフルエンザやコロナで当日、走ることのできない児童もいた。欠席した児童にとって、頑張った成果を発揮する場がなかったことが悔やまれる。 など

(4) 第十二中学校

【プロジェクト名】

12中プロジェクションマッピング

【取組内容】

5月 プロジェクションマッピング甲子園にエントリー（主催 一般社団法人センセイワーク）

6月～11月 指導助言を得ながら作品づくり

12月 作品を校内で公開

2月 プロジェクションマッピング甲子園で発表

【自己評価(成果)】

- タブレットを活用した映像作品をつくる、という創造的な取り組みに多くの生徒が参加できた。
- 参加者どうしでアイデアを共有してつくったストーリーをプロジェクターで投影できたときには、**達成感**を得ることができた。
- 部活動や授業以外での仲間同士のつながり**をつくることにもつながる良い機会であった。
- コンテストでは意欲的なプレゼンテーションが評価され、審査員特別賞を獲得することができた。
YouTubeでの視聴回数も他校に比して多く、本校の生徒が活躍する場面ができた。

【課題】

- 次年度の50周年記念行事に向けて、テーマを決めて、**地域に開かれた発表**を行うようにしていく。
- 十二中校区の小学校にも呼びかけ、地域でつくるプロジェクションマッピングを披露できたらと考えている。ぜひ、継続した取り組みにしていきたい。



2022年度 豊中市立第十二中学校（本番投影）

306 回視聴・2 週間前

プロジェクト プロジェクションマッピング甲子園

プロジェクションマッピング甲子園2022の参加作品です。テーマは「新生」。

[YouTubeにアップロードされた作品↑](#)

(5) 第十五中学校

【プロジェクト名】

生まれ変われ15中！=生徒と地域の力で学校を変える=

【取組内容】

- ビオトープを地域を巻き込んだ「**協働の場**」と位置づけ、管理体制構築を学校運営協議会で提案した。
- ビオトープを「**癒しの場**」として、年間6回ミニコンサートを開催した。
- ビオトープを「**学びの場**」として授業で活用した。
- ビオトープの整備により周辺との境界部分に石を敷き詰め、安全性を高めるため整備した。
- 「いちごフェスタ」をPTAや地域団体と連携して企画し、感染拡大防止に留意しながらもクイズ大会や、教員有志のステージ発表、花火大会、スタンプラリーなどの楽しいイベントを開催した。

【自己評価(成果)】

- ビオトープコンサートを計6回開催することができた。初めは音楽家の招聘から始まったが、2回目はPTA役員さん、3,4,6回目には生徒が出演した。
- 自己表現による有用感とそれを受容する雰囲気**、鑑賞の楽しさなど多くの生徒が感じられたと思う。またその場には地域の方も来てくださり、**開かれた学校**が実現した。
- 2月25日のビオトープ整備にはハンドボールやサッカー部員がたくさん参加してくれ、PTAのボランティアも40人ほど参加してくれた。学校運営協議会委員も数名参加いただき、総勢160名程度の学校と地域との協働の場となった。

【課題】

ビオトープ管理体制の構築について、学校運営協議会でその趣旨はご理解いただいたが、具体的な形としての維持管理体制の完成にまでは至っていない。今後更なる論議をして持続可能な協働の場としての体制づくりが望まれる。 など



同校で整備を進めるビオトープ↑